

先月（12月）に開催された「語ルシストの会」において、宮崎市議会議員の上野信吾氏に「これまでの活動とこれからの活動～理学療法士と市議会議員～」ご講話いただきました。その内容と所見を以下にまとめます。

上野信吾氏の歩み

上野氏はまず自己紹介として、高鍋高校（野球部）出身であること、卒業後に福岡リハビリテーション専門学校理学療法学科に進学し卒業後、東京の初台リハビリテーション病院に勤務されたこととお話しされました。その後、「患者にとって最適なりハビリテーションとは何か」を追求したいとの思いから、筑波大学大学院リハビリテーション専攻修士課程に進学し、2年間学ばれました。2014年には宮崎に帰省し、潤和会記念病院に入職。2023年に宮崎市議会議員に就任されています。

理学療法士から市議会議員への転身

上野氏が市議会議員への道を選んだきっかけは、宮崎で働く中で感じた「患者が社会参加しにくい現状」に対する問題意識でした。特に、リハビリの一環として公共交通機関を活用する練習が少なく、車の運転ができない患者が退院後に買い物や社会参加の機会を失い孤立してしまう現状に強い危機感を抱かれたとのこと。病院職員としての支援には限界があり、問題を根本から改善するには制度の構築や変革が必要であると考え、市議会議員を志されたそうです。

議員として掲げる政策と取り組み

上野氏は、選挙公約として以下の課題に取り組む姿勢を示されています。

- ・買い物難民や交通弱者の減少
- ・健康を維持しやすく、障がいを持った後も住みやすい街づくり
- ・財政の健全化
- ・子育て環境のさらなる推進
- ・市政の見える化

特に「買い物難民や交通弱者の減少」に注力し、具体策として福祉有償運送の活用を提案されています。この制度は、NPO法人や社会福祉法人が高齢者や障がい者など公共交通機関の利用が難しい人を対象に、自家用車を用いて有償で移動支援を行うものです。

宮崎市における福祉有償運送の現状と課題

宮崎市ではこの制度が存在するものの、以下の課題があります。

- ・利益が出にくい事業であるため普及が進みにくい。
- ・外出支援が最も必要と思われる要支援者の利用が少ない。
- ・「まちづくり推進委員会」や「自治会」が運送主体として参加していない。
- ・基本チェックリスト該当者が運送対象に含まれていない。

上野氏は、今後の課題として以下の取り組みが必要であると提言されています。

- ・基本チェックリスト該当者や「まちづくり推進委員会」を運送対象に含めること。
- ・自治会や「まちづくり推進委員会」を運送主体として認めること。

という中で、他市の事例では、自治会や町内会が運送主体として認められており、宮崎市でも「まちづくり推進委員会」が登録団体として認められる方向です。

身近な問題への取り組み

また、上野氏は子育て世代としての実体験を基に、子育て環境の向上に関する問題も積極的に議会で議題に取り上げられています。

こうした取り組みを通じ、宮崎市を「誰もが住みやすい街」にするため、身近な課題を一つ一つ解決していこうとする姿勢に共感するとともに、今後の活動への期待が高まります。

次回の案内

今回は、1月24日（金曜） 、19時～21時、
場所は、県福祉総合センター1階 ミーティングルーム

講師は、川村(かわむら)道子(みちこ)氏
宮崎県立看護大学 看護学部 精神看護学 教授

福岡県出身

九州大学医療技術短期大学部看護学科（現 九州大学医学部保健学科看護学専攻）卒業

九州大学病院（看護職）

別府市野口記念会病院（看護職）

宮崎県立看護大学（教職）教授 2019年4月～現在

放送大学宮崎学習センター客員教授・2021年4月～現在

＊研究テーマ

- ①看護学の視座から見る精神の病の成り立ちと回復過程
- ②メンタルヘルスセルフマネジメント
- ③音楽とメンタルヘルス
- ④中央アジア・東南アジアにおける精神看護の比較検討
- ⑤精神科病院看護職者の人材育成

＊宮崎県立看護大学では吹奏楽部顧問であり、自身も中学・高校と吹奏楽部に所属していました。

ライフワークで、「川村道子と愉快的仲間たち」とともに、県内あちらこちらで訪問演奏を行っております。